

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・ 8 〉	いわき市立	草野	中学校
＜実施日＞	平成28年 6月 3日(金)			
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()			
＜実践内容＞	1 本時の課題 放射線と健康の関係を調べよう 2 学習の流れ 「放射線等に関する指導資料第5版」学級活動の事例(P90)を参考に以下のような流れで指導を行った。			
段階	学習活動	指導上の留意点		
導入	1 放射線についてしていることを発表し、放射線と健康との関係に関心を持ち、本時の課題をとらえる。	○ 自然界にも存在し、工業、医療などさまざまな分野で利用されている例や健康に対する例を発表させ、関心を持たせる。		
展開	2 副読本などの資料をもとに、放射線に関する科学的な用語や放射線の被ばく量と健康の関係を読み取り、ワークシートに記入する。 3 記入した内容を発表する。 4 日常生活で微量の放射線を受けていること、低線量の放射線の健康への影響についてはさまざまな考えがあることを知る。	○ 読み取った情報をグループで協力してわかりやすくまとめさせ、発表させる。 ・放射線の特性について ・自然放射線に関すること ・人工放射線に関すること ○ 他のグループの発表はメモをとりながら聞かせる。		
終末	5 本時のまとめをする。 方左遷を受ける量はできるだけ少なくすることが大切であり、除染活動が行われていることを確認する。	○ 放射線から身を守るために大切だと思ふことをまとめさせる。		
＜成果＞	副読本を資料として活用しながら、放射線に関する基本的な語句や知識について真剣に知ろうとする姿が見られた。 放射線の健康に対する影響について知ること、原発事故の影響やこれから生活するうえで大切なことを考え、実践していこうとする態度を育てることができた。			
＜課題＞	今後、放射線の有用性について詳しく学習することで、放射線に対する正しい知識を身につけることの大切さや、日常生活の中で放射線に係わる情報により関心を持って生活しようとする態度を育てることが必要である。			
資料作成担当者職(教諭)氏名	(松尾綾子)		学校電話番号	(34-2208)

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)